

SAH×部活 集大成に活かせ！非認知能力

高校総体、インターハイに向けて頑張る前南生の背中を少しでも押したい。スポーツ漫画のあの人物の“言葉”を贈ります。言葉からパワーを得て、いざ決戦へ。前南生、Be ambitious！（編集 教頭）

「俺が”じゃなくて”俺たちで”勝つんだ」火神大我(黒子のバスケ) **協調性**

「強いのは俺じゃなくて皆だから」孤爪研磨(ハイキュー!!) **協調性・信頼**

「自分一人で戦ってるんじゃない。全員で繋いで、全員で守るんだ」沢村栄純(ダイヤのA) **協調性**

エースであっても、守ってくれる野手がいなければ勝てません。自分の役割を全うし、他者を信頼する。これが協調性の本質です。個人の能力がどれほど高くても、一人で勝てる試合はありません。仲間存在を認め、信頼し、力を合わせることで限界を超えられます。



「終わったことを悔やんでも仕方ない。次はどうするかだ」

越前リョーマ(テニスの王子様) **切り替え(マインドセット)**

試合中のミスをいつまでも引きずるのは、相手に塩を送るのと同じ。瞬時に意識を「次」へとシフトさせる切り替えの早さが勝負を分けます。

「ところで平凡な俺よ、下を向いている暇はあるのか」田中龍之介(ハイキュー!!) **「自己理解」と「レジリエンス」**

これは非認知能力の中でも特に重要な「自己客観視する力」と「レジリエンス(復元力)」を象徴しています。自分が天才ではないと認めた上で、腐るのではなく「じゃあ今何ができるか」と前を向く姿勢は、困難に直面した際の最強の武器になります。



「一歩も引くな。視線を逸らすな。今、この瞬間、お前の目の前にいる敵だけを斬ることだけを考えろ！」

羌痂(キングダム) → **切り替え(集中力の再構成)**

先の展開を不安がったり、過去の失点を悔やんだりするのは「心の迷い」です。今、目の前のボール、目の前の相手に全神経を集中させる。余計な思考を捨てて「今」に没入する切り替えの極致です。

※「キングダム」がスポーツ漫画？というツッコミはなしで

「絶望してもなお戦わんとする人間に、夢を叶える能力(チカラ)は宿る」絵心甚八(ブルーロック)

グリッド(やり抜く力)、精神的タフネス

圧倒的な実力差を見せつけられたり、大差で負けている絶望的な状況でも、「思考を止めずに最後まであがき続ける」能力です。部活動の苦しい走り込みや、負けが決まりそうな試合のラスト数分で、どれだけ自分を信じて足を動かし続けられるかという「土壇場の強さ」に直結します。

◎指導者（師匠）4人の言葉を紹介します

「下を向くなよ、バレーは常に上を向くスポーツだ！」鵜飼繫心(ハイキュー!!) **忍耐力(グリッド)**

苦しい時、ミスが続いた時。そこでもう一步踏ん張れるかどうか。耐えて上を向き続ける姿勢が、勝利を呼び込みます。

「負けたことがあるというのが、いつか大きな財産になる」堂本五郎(SLAM DUNK) **レジリエンス(逆境力)**

王者・山王工業の堂本監督が、敗北した選手たちに贈った言葉。失敗や負けをただの終わりとせず、立ち上がる力こそがレジリエンスの真髄です。



「ミスは誰にでもある！！気にするな！！それより後のプレーをどうするかだ！！」

田岡茂一(SLAM DUNK) **切り替え(マインドセット)**

これはミスをした選手に対して、あるいは自分自身に対して、最もシンプルで強力な切り替えの綾南高校監督の言葉です。ミスをした瞬間に「なぜあんなことを」と過去を悔やんでも、スコアは変わりません。「起きてしまった事象」と「これから起こるプレー」を切り離すことで、脳を後悔から解決へとシフトさせ、パフォーマンスの低下を最小限に抑えることができます。



「判断が遅い」鱗滝左近次(鬼滅の刃) **決断力**

練習や試合において、迷いは最大の敵です。この言葉は、ただ早く動くことではなく、「今の状況に対して何をすべきか即座に決める」自律的な思考の習慣化を求めています。迷いを捨てて実行に移す力は、チャンスを逃さないための必須能力です。 ※「鬼滅の刃」がスポーツ漫画？というツッコミはなしで

高校の3年間ってあっという間だよな。高校最後の戦いが終わった時、どんな思いになるだろうか。なかなか現実には厳しいけど、後悔をしてほしくない。やりきったと思ってほしい。若いみんなには伸びしろがある。残りの日々、全力で。そして、部活が終わっても人生は続く。天才だろうが凡人だろうが、自分自身を磨き続ける夢追い人でいてほしい。最後に先生が個人的に一番好きなセリフを贈ります。

「才能は開花させるもの、センスは磨くもの」